

半導体 トランプ関税とAI「バブル」

東洋経済新報社編集局報道部記者
石坂友貴

- *アメリカは直接、輸入していない
- *TSMCによる巨額投資のインパクト
- *ソフト面で他を圧倒するエヌビディア
- *AI関連だけが活況を呈している
- *ディープシークショックの背景
- *強気派の見方、弱気派の見方
- *これから伸びるAI需要
- *バーチャルAIからフィジカルAIへ
- *ラピダスが抱える課題と意義



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

それでは、今日の講師をご紹介します。

今日の講師は、東洋経済新報社で半導体業界を担当している石坂友貴記者でございます。去年の3月に半導体の話をさせていただきましたが、それから状況がどんどん変わり、今日は半導体の新局面と題して、最新の状況を話していただきます。

主なトピックスは、半導体業界がトランプ関税によってどのような影響を受けるかという話と、エヌビディアです。前回はエヌビディアがすごい注目を浴びていた時期でしたが、一強の状態がどうなっているのか。またAIバブルとの関係はどうなのか。エヌビディアとAIは非常に密接な関係にありますので、今回特に焦点

をあてていただき、皆さんの関心が高い日本のラピダスの現状もお話いただきます。

彼は非常に熱心な記者で、取材もたっぶりしております。現場の雰囲気なども十分知っておりますので、それらを踏まえた形でお話できると思います。

それでは石坂さん、よろしく願います。

（拍手）

石坂 皆さんこんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、東洋経済で記者をしている石坂と申します。この2年ぐらい半導体業界を担当し、半導体メーカー、半導体製造装置、材料、流通業者の半導体商社、そのあたりを幅広くカバーしております。

今回は、トランプ関税、AIバブル、最後に